

## コロナ禍でのソーシャルワーク支援の振り返り

緊急事態宣言から一年が経過しました。

これまで対面での面接を基本としていたソーシャルワーク援助も対面で行うことが困難となり、意識決定支援に支障の出る場面も出てきています。

まずは本人、家族含めて一堂に会して物事を協議することが困難となり、家族も本人の様子を直接確認する場面がなくなるあるいは極めて少なくなり、治療方針や転院先の検討について、家族としても意思決定をする困難さを極めてきていることでしょう。

私が担当させていただいた一事例になりますが、転院されてきた患者さんの家族に話を伺うと治療経過の説明は電話でのみとなり、転院先を決定する上での選択肢を提示されず、病院に転院先を決められてしまったとのことでした。

十分な情報提供と意思決定する場が与えられず、次の治療の場を選定されてしまったのです。

この事は対面での支援が制限されてしまうことから生じてしまったのではないかと考えられ、自身の人生における分岐点での意思決定場面に参加できていない状況であると考えられます。現在の業務環境下での支援環境を整えることで、このような事態を回避できるのではないかと考えられます。

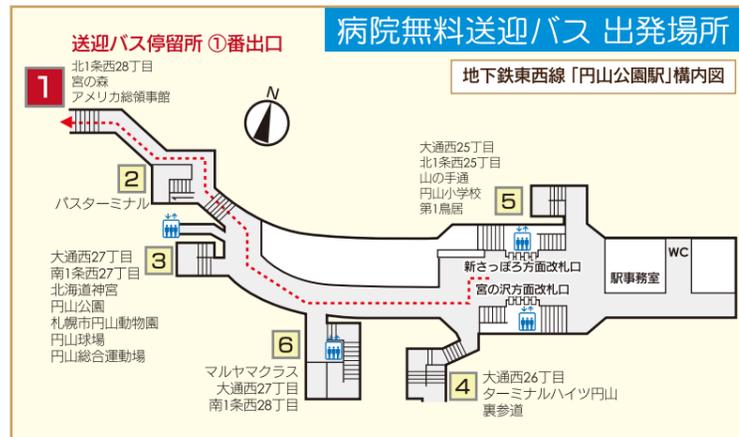
IT機器を用いるなどクライアントへの情報伝達手段を考え、十分な情報提供のもとに支援を行う必要性があると考えます。フクチンや治療薬が完成したとしても以前と同様の環境になるとは限りません。

私たちの支援の仕方も現環境に適応させていく必要があるのではないのでしょうか？当院としては、通信環境を整備し、1月よりオンライン面会を開始しました。今後、意思決定場面での活用ができるよう、検討していく予定です。

## 無料送迎 バスのご案内



- 地下鉄東西線「円山公園駅」より無料送迎バスを運行しておりますので、ご利用ください。(約10分)



無料送迎バスは②番出口バスターミナルからは乗車できませんので、ご注意ください。  
時刻表のバスは、すべて地下鉄円山公園駅①番出口発となります。  
時刻表★のバスは、土日祝祭日は運休となります。

## バス時刻表 2020.4.1 改定

時	病院発	地下鉄「円山公園駅」発
8	—	★40 55
9	15 55	35
10	50	15
11	30	10 50
12	10 50	—
13	★30	10
14	10	30
15	00 40	20
16	20 45	00 40
17	★25 30	45
18	00 30	15 45
19	00 30	15 45
20	05 45	30
21	25 45	—

①番出口発車

No.123

ご自由にお持ちください

発行日：2021.4.1

# にしまるやま通信

季節の写真レビュー



## 特集 当院訪問リハビリテーションの 紹介と取り組みについて

- ・【コラム】わたしたち、医療ソーシャルワーカーです！！
- ・コロナ禍でのソーシャルワーク支援の振り返り
- ・無料送迎バスのご案内

病院の  
ご案内

札幌西円山病院  
診療科目／内科、老年内科、神経内科、リハビリテーション科、循環器内科、歯科  
病 床 数／603床(障害者施設等一般病棟、医療療養病棟、回復期リハビリテーション病棟)  
札幌西円山病院 介護医療院  
入所定員／60名(3人床：19部屋、個室：3部屋)

「にしまるやま通信」についてのお問い合わせ先

医療法人 溪仁会  
札幌西円山病院 地域連携推進室 TEL：(011)644-1380 FAX：(011)642-4347  
〒064-8557 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 札幌西円山病院 地域連携推進室内 広報誌「にしまるやま通信」編集事務局

# 当院訪問リハビリテーションの紹介と取り組みについて

住み慣れた地域で暮らし続けていけるよう介護保険サービスのひとつとして訪問リハビリテーション(以下、訪問リハビリ)があります。当院訪問リハビリでは主に自立支援や重度化防止のための取り組みを実践していますので、何回かに分けてそれらを紹介出来たらと思っています。



## ❓ にしまるやま訪問リハビリの特徴を教えてください

- 当院退院後の訪問リハビリでは、①退院直後よりご自宅等の生活へスムーズに移行出来るよう迅速に調整を行い、早期より訪問リハビリを開始します。(退院から訪問リハビリ開始まではだいたい6日間程度)②入院期間中のリハビリ場面では訪問リハビリ担当者によるリハビリも実施するので、馴染みある関係の中でそのまま訪問リハビリをスタートさせることが出来ます③神経筋疾患患者に対しては入院時の治療、短期集中リハの相乗効果を在宅でも継続してもらうための関わりを重点に行っています。
- 言語聴覚士が在籍しておりますので嚥下機能・コミュニケーションへの積極的関わりを行うことが出来ます。

## ❓ 利用対象者を教えてください

- 介護保険で要支援1～2、要介護度1～5の介護認定を受けた方のみです。
- 当院退院された方はもちろんのこと、その他医療機関を退院された方、在宅で生活されている方も対象としています。過去に利用された利用者は平均年齢81.8歳、平均要介護度2.2、運動器疾患が70%、脳血管疾患が20%、廃用症候群(安静状態が長期に渡って続く事によって起こる、さまざまな心身の機能低下等を指す状態のこと)10%となっています。

## ❓ 利用提供範囲・時間・費用等について教えてください

- 札幌市内でさらに当事業所より半径10キロ以内となっています。※10キロ以上は別途交通費徴収にて利用可能です。(右記参照)
- 利用区の割合は中央区42.9%、西区12.5%、手稲区8.9%、厚別区7.2%、北区・白石区・豊平区7.1%、南区5.4%、東区1.8%となっており中央区、西区、手稲区が多くなっています。
- 月曜日から金曜日の9:00～17:00までとなっております ※土日祝日、年末年始(12月30日～1月3日)を除きます。
- 当院訪問リハビリは介護保険の保険給付が適用されるサービスのため、原則介護報酬の1割～3割が利用者負担となります。介護保険の給付範囲を超えたサービス利用は、全額自己負担となります。



図：当院訪問リハビリ事業所から往復10キロ圏内

## ❓ どのような職種が訪問リハビリを行っているのか教えてください

理学療法士2名 作業療法士2名 言語聴覚士1名 事務員1名の5名体制です。  
※2021年度以降随時増員を予定しています。

# わたしたち、医療ソーシャルワーカーです!!

『医療ソーシャルワーカー』という職種をご存じでしょうか？他職種からは、よく“MSW(エムエスダブルユー)”と呼ばれますが、これは Medical Social Workerの頭文字をとった略語となっています(以下、MSWと表記)。MSWは、保険医療機関において、社会福祉の立場で患者様やご家族様、関係機関の方などの相談にのり、問題解決や調整、社会復帰援助などを行う専門職です。業務内容も、受診から入院の相談、福祉制度や介護サービスのご案内、多職種や外部機関との連携業務など、多岐にわたっています。当院のMSWは、現在16人配置しており、病棟機能や専門分野などで4チーム※1に分かれております。今年度のコラムでは、チームごとにその業務や役割、制度などについてご紹介する予定です。

チームは異なりますが、患者様の“well-being(ウェルビーイング)※2”を実現していくといった共通の目的の下にわれわれMSWは日々業務に取り組んでおります！

※1 『回復期リハビリテーション病棟』『一般・療養病棟』『神経内科』『入院判定』の4つのチーム。  
※2 身体的・精神的・社会的に良好な状態、健康・幸福な状態であることです。



## 第1回目 回復期リハビリテーション病棟チームより

第1回目のMSWコラムは、われわれ『回復期リハビリテーション病棟』のMSWが担当させていただきます。病棟機能とMSWの実際の業務についてご紹介させていただきます。

### 回復期リハビリテーション病棟とは

脳血管疾患・整形疾患等の急性期治療後に、集中的なリハビリを行い心身ともに回復し社会復帰を目指す病棟です。対象となる疾患ごとに、入院できる期間が定められています。

### 回復期リハビリテーション病棟におけるMSWの業務 ※当院の場合

- 1 入院オリエンテーションの実施とIC(インフォームドコンセント・病状等の説明と同意)への同席  
入院案内や入院費・助成制度などの説明、書類作成をいたします。
- 2 アセスメントの実施  
病状や心身機能、とりまく環境や社会資源などの情報を収集し、療養生活や退院にあたっての課題を見つけ出し、支援内容を決定します。これらの過程をアセスメントといい、効果的な支援が提供できているかモニタリング(評価)も実施します。MSWは、入院期間中においてこのプロセスを繰り返しながら支援にあたります。
- 3 リハビリテーションカンファレンスへの参加  
これは、医師・看護師・セラピスト(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)・介護士・管理栄養士・MSWといった多職種が参加し、その専門的観点から意見を出し合い、よりよい治療方針や支援内容を決定していく場です。退院までの間に数回実施されます。
- 4 ファミリーミーティングの開催  
名前の通りご家族に来院していただき、現状や治療方針についてご説明し、同意をいただいております。上記したリハビリテーションカンファレンスの内容を説明します。
- 5 福祉制度の利用援助  
入院時や療養中、退院後に利用可能な社会制度について確認し、申請や利用の援助を行います。
- 6 退院支援  
回復期リハビリテーション病棟のMSWにとって、退院支援は必須であり、患者様の意向に沿った効果的・効率的な退院支援を行うことが非常に重要です。生活歴・社会資源・生活環境などを確認しながら支援にあたります。必要に応じて、環境確認・生活場面での動作などを確認する為にご自宅訪問も実施しています。

以上、回復期リハビリテーション病棟のMSWの業務を紹介させていただきました。ケース内容によっては、上記以外の業務も行うこともありますが、今回は標準的な業務内容を紹介させていただきました。次号は、『神経内科チーム』へバトンをつなぎます！